

指定管理者が行う公の施設の管理状況報告（平成23年度分）

< 県の評価等 >

施設所管部名: 県土整備部

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	三重県流域下水道施設 北部浄化センター (三重郡川越町大字亀崎新田80番地の2 他) 南部浄化センター (四日市市楠町北五味塚1085番地の18) 雲出川左岸浄化センター (津市雲出鋼管町52番地の5 他) 松阪浄化センター (松阪市高須町3922番地 他) 宮川浄化センター (伊勢市大湊町1126番地)
指定管理者の名称等	財団法人三重県下水道公社 理事長 田岡光生 (松阪市高須町3922番地)
指定の期間	平成21年4月1日～平成26年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	<ul style="list-style-type: none"> 流域下水道の機械施設及び電気施設の操作に関する業務 流域下水道の施設、設備及び備品の維持管理に関する業務 その他の業務

2 施設設置者としての県の評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	H22	H23	H22	H23	
1 管理業務の実施状況	A	B			流域下水道施設の管理について、季節、天候、流入水質等が変動するなかで、コスト節減を図りつつ適切に施設の運転管理が実施され、良好な水質の確保されている。
2 施設の利用状況	A	B			流入する汚水について、全て良好な水質に処理するとともに、下水道の普及啓発のため、浄化センターへの見学者を積極的に受け入れている。
3 成果目標及びその実績	A	B			放流目標水質については、法定排水基準をすべて達成しており、法定排水基準を上回る自主管理値についても、概ね達成している。 コスト削減については、当初目標どおりの取組を行い、成果を上げている。

※「評価の項目」の県の評価：
 「+」(プラス) → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。
 「-」(マイナス) → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。
 「 」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総括的な評価	<p>(指定管理者の評価に対する県の評価)</p> <p>指定管理者においては、すべての項目についてB評価としている。 下水処理に係る専門的な知識とノウハウを活かし、法定排水基準を上回る自主管理値を設定して運転管理を行い、良好な放流水質を確保し、ライフラインとしてのセーフティネットを確保している。 また、流域下水道の関連市町の負担軽減を図るため、下水汚泥の含水率を低減させることで廃棄物の減量化を行い処分費用を抑制するなど、積極的なコスト削減を図っている。</p> <p>(今後の課題又は指定管理者への期待)</p> <p>今後、施設の老朽化が進むことに伴い維持管理費等の増加が予想される。そのため、ライフサイクルコストの低減と施設の長寿命化がますます重要になることから、適切な維持管理を計画的かつ効率的に実施していく必要がある。</p>
--------	--

＜指定管理者の評価・報告書（平成23年度分）＞

指定管理者の名称：財団法人 三重県下水道公社

1 管理業務の実施状況及び利用状況

(1) 管理業務の実施状況

① 流域下水道施設管理運営事業の実施に関する業務

施設の設置目的を達成するため、季節、天候及び流入水量の変動等いかなる状況下においても、安定したサービスを提供するとともに、公共用水域である伊勢湾の水質保全及び改善に寄与すべく、法定排水基準よりも非常に厳しい自主管理値を設定し、24時間体制で運転管理を行っている。

また、悪水流入の未然防止活動として、幹線管渠における水質監視パトロール及び公共下水道との接続点における水質調査を県、関係市町と連携のうえ実施し、危機管理に努めている

なお、放流水質は、大雨による急激な流入水量の増加等から、北部浄化センター、南部浄化センター、宮川浄化センターにおいて一部の水質項目（BOD、SS、T-P）の最大値が自主管理値を超過する結果となったが、その他の浄化センターにあっては、自主管理値以内の数値を維持し、良好な水質を確保している。

さらに、コスト削減については、削減目標に基づき、大きな成果が得られた。

② 施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

ライフサイクルコストの低減を念頭にオーバーホール計画のもと維持修繕を実施し、故障による緊急修繕を含め、127件、約295,000千円の維持修繕を行った。

③ 県施策への配慮に関する業務

持続可能な循環型社会の構築に向け、環境負荷の軽減等を図る観点から、下水汚泥の含水率を低減させることにより、廃棄物の減量化を行うとともに、処分費用の抑制に努めている。

具体的には、脱水機の標準性能から各処理場において、含水率を0.9から3.9ポイント低減させて汚泥処理を行っている。

これにより、平成23年度は、標準性能であれば、51,219トンの汚泥が発生するところ、42,429トンに抑制し、約17%程度の減量化を図った。

④ 情報公開・個人情報保護に関する業務

「三重県下水道公社情報公開規程及び実施要綱」に基づき、適正に運用している。

また、「三重県下水道公社個人情報保護規程」を定め、全職員に下水道公社が保有する個人情報の厳重な管理を周知し、個人の権利利益の保護に努めている。

なお、平成23年度における開示請求の件数は、23件で、うち22件を開示決定し、1件は不存在としている。

⑤ その他の業務

雲出川左岸浄化センターにおいて、返流水管の劣化によるアスファルト陥没と返流水管の閉塞及び不明水を含んだ大量の汚水とともに土砂が流入したことによる重力濃縮汚泥管の閉塞が発生した。

このため、陥没箇所の埋め戻しを行うとともに、管路清掃などの復旧対応を行った。

(2) 施設の利用状況

ライフラインである流域下水道施設の汚水処理業務については、流入する汚水を良好な水質に処理するとともに、業務を中断することなくサービスの提供を継続している。

また、下水道に関する理解を深めるとともに、正しい利用方法などを啓発するため、通年にわたって浄化センターへの施設見学者を受け入れるとともに、下水道ポスターコンクールの実施等を通じて、下水道の普及啓発に努めている。

・ 全浄化センターにおける流入水量 66,837,103 m³

・ 全浄化センターにおける施設見学者数 4,836 人

2 利用料金の収入の実績

該当なし

3 管理業務に関する経費の収支状況

（単位：円）

収入の部			支出の部		
	H22	H23		H22	H23
指定管理料	2,369,929,638	2,400,744,555	事業費	2,289,368,862	2,390,224,670
利用料金収入			管理費	80,560,776	10,519,885
その他の収入	0	0	その他の支出	0	0
合計 (a)	2,369,929,638	2,400,744,555	合計 (b)	2,369,929,638	2,400,744,555
収支差額 (a)-(b)	0	0			

※指定管理者が変わった場合、前年度の収支状況には斜線を記入しています。

※参考

利用料金減免額	—
---------	---

4 成果目標とその実績

成果目標	目標放流水質(最大値) (BOD、COD、SS、T-N、T-P の単位:mg/l)						
		BOD	COD	SS	T-N	T-P	汚泥の含水率
	北部浄化センター	8.0	12.0	10	10.0	1.2	76%以下
	南部浄化センター	7.0	11.0	8	9.0	1.5	76%以下
	雲出川左岸浄化センター	10.0	15.0	5	15.0	1.3	78%以下
	松阪浄化センター	5.0	12.0	3	9.5	0.5	75%以下
	宮川浄化センター	10.0	15.0	5	9.5	0.5	75%以下
成果目標に対する実績	コスト削減項目						
							目標値
	反応槽の間欠攪拌運転の実施により電気料金の削減						5年間で10,000千円削減
	再委託業務を複数年で契約することにより委託料を削減						5年間で30,000千円削減
	電力需給契約を長期化することにより基本料金を3%削減						5年間で15,000千円削減
	脱水汚泥の年平均含水率を2%削減することにより脱水汚泥量を8%削減						5年間で16,000トンを削減
	工程管理のための水質試験を自社化による委託費等の削減						5年間で75,000千円削減
	放流水質(最大値) (BOD、COD、SS、T-N、T-P の単位:mg/l)						
		BOD	COD	SS	T-N	T-P	汚泥の含水率
	北部浄化センター	7.1	11.0	16	8.8	1.0	73.4%
南部浄化センター	7.9	10.0	6	8.9	1.5	73.2%	
雲出川左岸浄化センター	8.3	9.5	3	10.0	0.9	74.1%	
松阪浄化センター	1.4	7.5	2	8.7	0.4	73.7%	
宮川浄化センター	10.0	15.0	8	9.2	0.7	74.1%	
成果目標に対する実績	コスト削減項目						
	反応槽の間欠攪拌運転の実施により電気料金の削減						
	平成23年度: 6,610千円削減 (平成21~23年度: 15,206千円削減)						
	再委託業務を複数年で契約することにより委託料を削減						
	平成23年度: 3,531千円削減 (平成21~23年度: 9,521千円削減)						
	電力需給契約を長期化することにより基本料金を3%削減						
	平成23年度: 6,015千円削減 (平成21~23年度: 14,366千円削減)						
	脱水汚泥の年平均含水率を2%削減することにより脱水汚泥量を8%削減						
	平成23年度: 8,790トンを削減 (平成21~23年度: 24,141トンを削減)						
	工程管理のための水質試験を自社化による委託費等の削減						
平成23年度: 10,625千円削減 (平成21~23年度: 67,921千円削減)							

今後の取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ○ 業務計画書に基づき、業務を適正に実施し、一層の水質保全を図るとともに、長寿命化を視野に入れた浄化センター施設の維持管理に努める。 ○ 効率的な運転及び調達方法の実施により、維持管理費の抑制に努力し、関係市町、下水道利用者の負担軽減に寄与する。 ○ コスト削減に繋がる汚泥を減量化するための研究を実施する。 ○ 県、関係市町と連携を強化し、三者一体となって危機管理活動を実施する。
---------	--

5 管理業務に関する自己評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	評価		コメント
	H22	H23	
1 管理業務の実施状況	A	B	業務計画書に定めた管理業務について、季節、天候により流入水質が変動するなか、水処理工程における常時監視及び工程調整等の日常的な管理を適切に行い、法定排水基準を全て達成するとともに、さらに厳しい自主管理値についても、概ね達成し、良好な放流水質が確保できた。
2 施設の利用状況	A	B	汚水処理業務については、年々増加する流入汚水を良好な水質に処理し、公共用水域へ放流するとともに、各浄化センター施設において、下水道の普及啓発を図るため施設見学者を受け入れ積極的に施設を活用した。
3 成果目標及びその実績	A	B	放流水質は、大雨による急激な流入水量の増加等により、一部の水質項目（BOD、SS、T-P）の最大値が自主管理値を超過する結果となったが、法定排水基準は全て達成し、良好な水質を確保している。 また、コスト削減については、当初の目標に定めた取組を全て実施し、大きな成果が得られた。

※評価の項目「1」の
評価：

- 「A」→ 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
「B」→ 業務計画を順調に実施している。
「C」→ 業務計画を十分には実施できていない。
「D」→ 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」
「3」の評価：

- 「A」→ 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
「B」→ 当初の目標を達成している。
「C」→ 当初の目標を十分には達成できていない。
「D」→ 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

総括的な 評価	<p>三重県流域下水道施設の指定管理者として、良好な放流水質を確保すること、いかなる状況下でも安定したサービスを提供すること、継続的に管理コストの低減を行うこと、施設の延命化を図ること等を基本方針として、施設の管理運営に努めた。</p> <p>平成23年度は、全浄化センターの年間流入水量 66,837,103 m³を良好な水質に処理し、伊勢湾の水質保全及び改善に寄与できた。しかしながら、大雨による急激な流入水量の増加等から、一部の水質項目の最大値が自主管理値を超過する結果となったが、法定排水基準の範囲内であった。</p> <p>また、悪水流入の未然防止活動として、幹線管渠における水質監視パトロール及び公共下水道と県管路との接続点における水質調査を県、関係市町と連携のうえ実施し、危機管理の向上に努めた。</p> <p>なお、コスト削減については、削減目標に基づき大きな成果が得られている。</p> <p>さらに、継続した職員構成の見直し（豊富な経験と高い技術力を有する団塊世代の職員を再雇用、人材派遣会社からの派遣職員を嘱託職員へ移行）により、人件費の抑制を図るとともに、次世代に向けた人材育成のための体制づくりを実施している。</p>
------------	---

指定管理者が行う公の施設の管理状況報告（平成23年度分）

<県の評価等>

施設所管部名: 県土整備部

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	県営都市公園 北勢中央公園（四日市市西村町地内）
指定管理者の名称等	岩間造園株式会社 代表取締役 岩間久爾（名古屋市長穂区中山町6-3-2）
指定の期間	平成20年4月1日～平成25年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・公園の維持修繕及び巡視点検に関する業務 ・公園の利用者への案内に関する業務 ・条例に基づく公園の利用時間の変更、公園内の行為の制限、利用の禁止又は制限 ・公園施設のうち野球場、テニスコートの利用の許可 ・公園の利用の促進 ・その他の業務

2 施設設置者としての県の評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	H22	H23	H22	H23	
1 管理業務の実施状況	B	A		—	公園施設の点検、管理を適切に実施し、芝生広場等も日常的によく管理されており、利用者にとって良好な状態が保たれている。
2 施設の利用状況	B	B	+		スポーツ施設の運営について利用者の視点に立って取組みを進め、利用者の利便性向上に努めている。
3 成果目標及びその実績	B	B			自主事業に積極的に取組むなど利用促進に努めた結果、公園利用者数及び料金収入とも目標を達成している。

※「評価の項目」の県の評価：
「+」（プラス）→ 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。
「-」（マイナス）→ 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。
「 」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総括的な評価	<p>(指定管理者の評価に対する県の評価)</p> <p>指定管理者においては、「管理業務の実施状況」についてはA評価、「施設の利用状況」、「成果目標及びその実績」についてはB評価としている。</p> <p>「管理業務の実施状況」については、概ね適切な植物管理や施設管理が実施されてはいるが、特に優れた実績をあげているとまではいえないと考えマイナス評価とした。</p> <p>管理費を 3,165,645 円減少させたうえで、事業費を増やし、自主イベント等を行っており、コスト削減に努めつつ、住民サービスの向上に取り組んでいると評価できる。</p> <p>(今後の課題又は指定管理者への期待)</p> <p>平成23年4月に供用開始した「多目的広場」を活用した利用促進への取組を積極的に行い、利用者の増加を図っていく必要がある。</p> <p>また、利用料収入を上げるために平日利用の促進が必要である。</p>
--------	---

<指定管理者の評価・報告書(平成23年度分)>

指定管理者の名称:岩間造園株式会社

1 管理業務の実施状況及び利用状況

(1)管理業務の実施状況

①北勢中央公園事業の実施に関する業務

○公園内の芝生及び植栽樹木等の維持管理業務

溜池北側の多目的広場や堤防通路等のエリアが新たに供用開始され、管理区域面積が32.4haとなった。公園の魅力でもある広大な芝生広場の管理は平成22年度に引き続き大型芝刈り機を導入し、生育環境・場所に合わせた芝刈り作業を実施し、利用者が快適に利用できるように提供した結果、利用者が増加した。施設の清掃管理、日常点検、修繕、異常個所の早期発見により利用者が安全、安心、快適に利用できるよう適切な施設の運営管理に努めた。

○利用促進イベント等の開催(自然体験型、スポーツ教室など)

5月に季節の草木を使ったミニ盆栽作りを実施した。夏休みが始まった7月下旬、親子で参加できる自然体験型イベントを実施した。自然の魅力や昆虫クイズなどを実施し生態系などを学んだり、カブトムシの寝床を掘り出し採集できる体験などを親子で楽しんでいただいた。

11月に小学生の親子を対象とした親子ふれあいキャッチボール教室を実施した。プロ野球OBクラブ協力のもと中日ドラゴンズOB選手を3人招待し、キャッチボールを通じて親子の絆を深めたり、プロ野球OB選手からボールの握り方、捕り方、投げ方など直接指導していただき、参加者には大好評のイベントとなった。園内で集めた落葉を集積し、腐葉土として再生化し公園利用者に無料配布サービスを実施した。

12月に園内で集めた天然素材を利用した体験イベントミニ門松作りを実施した。社会人クラブチームの協力を得て北勢地域の野球少年対象とした野球教室を実施した。公園を利用して自然体験型のイベントやスポーツ大会、教室を開催し、幅広い学習の場としても活用された。

施設利用者の利便性向上のため、平成22年度から取組んできた電話予約システムは、利用者から利用しやすい等の意見を頂いている。

又、公園ホームページから施設の予約状況の情報を的確に発信し、利用者の利便性の向上に努めた。

②施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

○施設・設備の維持管理

公園内の高圧電力設備、浄化槽設備、消防用設備、水道用設備の設備点検に関しては、専門業者が定期的に点検を実施し、安全確保に努めた。特に改善を指摘されるような問題点はなかった。日常点検等については、毎日の巡回時に点検を行なうとともに異常等の早期発見に努めた。

○修繕関係

供用開始して18年が経過していることから、特に鉄製、木製の老朽化(フェンスの発錆、木製の転落防止柵)が目立つ状況である。調整池において、木製転落防止柵の老朽化や部材の腐食が進行しているため、部分的に補強と部材入替工事を実施した。野球場では、フェールポールの塗装剥離、外野フェンスの発錆防止のため塗装塗替え工事を実施した。球場の内野については不陸修正を実施し、守備位置が裸地になっている部分については、芝張替工事を実施した。テニス設備ではテニスネットを部分的に修理したり、更新して使用できるようにした。今年度は凍結や積雪が多く設備の不具合が多い年でもあり、凍結により水道管からの漏水や水道蛇口の破裂、トイレ設備の不具合や破損などの小規模修繕が多く発生した。その他簡易的な修繕については、職員ですべて対応し、経費削減に取組んだ。

③県施策への配慮に関する業務

○次世代育成支援の推進として、自然観察会、親子ふれあいイベントを通して県民の親子の絆、豊かな個性、感受性を育んだ。人権尊重社会の実現として、基本的人権を尊重することにより、地域、国籍、年齢、性別等に隔たりない接客対応を行った。又、障害者や高齢者を職員として継続雇用了。資源循環型社会の構築については、ゴミの排出と不法投棄をなくすため「ゴミの持ち帰り」を呼びかけている。園内で発生する草木については、チップ化処理し、林床部に敷設しマルチング利用したり、芝草チップはカブトムシの幼虫飼育として利用している。又、施設内の不必要な照明を消灯する、コピー用紙の裏面再利用する、冷暖房の省エネ温度設定を徹底する等経費削減に努めた。

④情報公開・個人情報保護に関する業務

○情報公開は「北勢中央公園の管理に関する情報公開実施要領」に基づき適切に対応した。平成23年度の開示請求はなかった。

○個人情報保護として、有料施設申請時やイベント参加者の個人情報等は、個人情報保護規定に従い、スタッフへの勉強会を実施した。書面の保管に関しても施錠できる場所に保管している。

⑤その他の業務

○公園の管理上、不測の事態が発生した場合を想定し、「危機管理マニュアル」を策定し、事故、災害時の連絡体制や差別落書き等の人権侵害事案への対応を明確に行うこととしている。

(2)施設の利用状況

<目標> 年間公園利用者数 19万人
 <実績> 年間公園利用者数 232,017人
 園内利用者数 185,170人
 野球場利用者数 20,130人
 テニスコート利用者数 26,717人

2 利用料金の収入の実績

〈施設利用料金収入目標〉 855万円

〈施設利用料金収入実績〉 8,572,400円

野球場 2,334,560円

テニスコート 6,237,840円

3 管理業務に関する経費の収支状況

(単位:円)

	収入の部		支出の部		
	H22	H23		H22	H23
指定管理料	52,618,000	53,523,000	事業費	8,352,334	11,472,802
利用料金収入	8,546,390	8,572,400	管理費	52,767,603	49,601,958
その他の収入	57,039	25,000	その他の支出	0	0
合計 (a)	61,221,429	62,120,400	合計 (b)	61,119,937	61,074,760
収支差額 (a)-(b)	101,492	1,045,640			

※指定管理者が変わった場合、前年度の収支状況には斜線を記入しています。

※参考

利用料金減免額	—
---------	---

4 成果目標とその実績

成果目標	年間公園利用者数 19万人 施設利用料金収入 855万円
成果目標に対する実績	年間公園利用者数 232,017人 園内利用者数 185,170人 有料施設利用者数 46,847人 施設利用料金収入 8,572,400円
今後の取組方針	平成23年度の公園利用者数目標を上回り、成果目標を達成した。これも日々の日常維持管理業務、運営業務を常に利用者の目線で物事を考えて取組んできた成果と考える。 今後も北勢中央公園のPR活動を行い、職員の意識を向上させ、北勢中央公園が「また来たくなる」満足感の向上を目指した公園づくりに取組んでいきたい。

5 管理業務に関する自己評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	評価		コメント
	H22	H23	
1 管理業務の実施状況	B	A	<p>北勢中央公園の魅力ともいえる広大な芝生広場の美観が維持されるように平成22年度に引続き大型芝刈機を導入し、それぞれの生育環境・場所に合わせた芝刈作業を行い、公園利用者に快適な環境を提供することができた。その結果、芝生広場利用者が増加し、成果目標が達成できた。又、マルチ人材化及び適正配置により人件費の削減を図るとともに、職員が直接作業を実施することにより委託費の縮減に努めた。</p> <p>公園利用者満足度調査では、樹木、芝生の管理について9割以上から「良い」との回答があり、トイレ設備、遊具等の清掃についても9割以上の利用者から「良い」との意見を頂いた。</p> <p>管理棟、園内花壇の美化を図るため定期的な土壌改良など良好な生育状態を保てる管理を実施し、快適な空間維持に努めた。</p>
2 施設の利用状況	B	B	<p>有料施設利用者数は、46,847人と週末の天候不良と夏場の猛暑、冬場の積雪による施設利用不可により平成22年度に比べて7.2%減であった。公園利用者数は、昨年度を上回る185,170人となり52.1%の増であった。</p> <p>利用者への利用促進PRとして、施設の予約状況をの更新頻度をダイレクトにホームページで反映させるとともに公園の掲示板やイベント情報を地域のケーブルテレビやイベント情報誌等にも行事案内を積極的にに行った。さらにイベント行事の報告を管理棟ロビーにて写真で紹介し公園の取組について情報を提供した。</p> <p>新規でのテニス利用者が利用する機会が増えてきたことから、気軽に利用できるようテニスボールの無料貸出しサービスを行い、今後も利用者の目線に立って工夫していきたい。</p>
3 成果目標及びその実績	B	B	<p>年間公園利用者数成果目標19万人に対して232,017人と目標を達成できた。</p> <p>公園利用者数が増加したのは、職員が「また来たい」公園づくりを目指し日々取組んできた成果だと考えている。公園利用者アンケート調査にも「芝生がきれい」、「快適に利用ができる」「また来たい」などの意見をいただいていることから利用者が増加したものと考えられる。</p>

※評価の項目「1」の評価：

- 「A」→ 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
「B」→ 業務計画を順調に実施している。
「C」→ 業務計画を十分には実施できていない。
「D」→ 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」「3」の評価：

- 「A」→ 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
「B」→ 当初の目標を達成している。
「C」→ 当初の目標を十分には達成できていない。
「D」→ 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

総括的な評価	<p>●上記の評価に至った根拠・理由</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成23年度においては、成果目標19万人に対して公園利用者数232,017人と目標を達成できた。 日常の維持管理を適切に実施し、公園施設が良好な状態に保たれたことにより、公園利用者に快適な環境を提供することができた。その結果、芝生広場利用者が増加し、成果目標を達成できたと考えられる。 今後、徐々に供用面積が拡大していく公園の維持管理については、これまで以上に美観を維持していくことが必要であり、それぞれの環境に合った管理内容と利用者のニーズを的確に把握し、快適な空間づくりを提供していくことが重要である。又、マナーの悪い利用者が減少するように、日々声掛けを行うとともに積極的にコミュニケーション活動を実施し、利用者からの情報収集に努めていく必要がある。 平成24年度の年間公園利用者数は、23万人を目標とし、北勢中央公園の魅力を積極的に広報し、利用促進に取組みとして、ホームページを随時更新するとともに初めて公園を利用する方や公園の魅力や四季折々の案内情報を発信するとともに花木の開花情報やイベント情報など積極的に情報発信の向上に努め、成果目標の達成を目指す。 <p>●その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成23年度においても、公園内の清掃と植物管理の美化を適切に実施し、県民の誰もが快適に利用できる場を提供した。 マルチ人材化及び適正配置により人件費の削減を図るとともに、直営作業班による作業実施により委託費の縮減を図った。 危機管理体制については、AEDの取扱講習を含む救命救急法講習会への参加や消防訓練を実施し、安全管理の徹底に取り組んでいる。 施設利用者の利便性向上のため取組んできた電話仮予約システムについては、利用者からは利用しやすい等高い評価を受けている。又、ホームページより施設の予約状況の情報を的確に発信し、利用者の利便性向上に努めている。
--------	--

指定管理者が行う公の施設の管理状況報告（平成23年度分）

< 県の評価等 >

施設所管部名： 県土整備部

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	県営都市公園 鈴鹿青少年の森（鈴鹿市住吉町地内）
指定管理者の名称等	東海美松園グループ 代表者 久保田健児（津市あかつ台四丁目2番5）
指定の期間	平成20年4月1日～平成25年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・公園の維持修繕及び巡視点検に関する業務 ・公園の利用者への案内に関する業務 ・条例に基づく公園の利用時間の変更、公園内の行為の制限、利用の禁止又は制限 ・公園施設のうち野外ステージの利用の許可 ・公園の利用の促進 ・その他の業務

2 施設設置者としての県の評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	H22	H23	H22	H23	
1 管理業務の実施状況	B	B	+		施設、植物管理等、業務計画に沿って適正に行われている。 また、施設老朽化に伴う不具合箇所の対応も迅速に実施されている。
2 施設の利用状況	B	B			利用者増加、サービス向上を目的として、従来からの自主事業の実施の他、受付事務所の移設など積極的な取組を行っている。
3 成果目標及びその実績	C	C	+	+	年間公園利用者数は、目標を若干下回ってはいるが、概ね達成している。 平成23年度は、平成22年度に比べて約7千人増加している。

※「評価の項目」の県の評価：

「+」（プラス）→ 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。

「-」（マイナス）→ 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。

「」（空白）→ 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総括的な評価	<p>（指定管理者の評価に対する県の評価）</p> <p>指定管理者においては、「管理業務の実施状況」、「施設の利用状況」についてはB評価、「成果目標及びその実績」についてはC評価としている。</p> <p>「成果目標及びその実績」については、適正な施設管理及び植物管理の実施、自主事業の展開を行い、毎年度着実に利用者は増加しており、平成22年度に比べ利用者が約7千人増加していることを考慮しプラス評価とした。</p> <p>施設の老朽化に伴って、不具合箇所の修繕も多くなっているが、簡易な作業については、職員により迅速に作業を実施することで、利用者の安全確保及び維持管理コストの削減に努める一方、グループ職員への災害訓練、防災研修の実施等、危機管理意識の強化を図っている。</p> <p>管理業務に関する経費が582,995円増加しているが、これは受付事務所を移設することに要した経費等であり、この取組は、住民サービス向上につながったと評価できる。</p> <p>（今後の課題又は指定管理者への期待）</p> <p>開園後40年以上が経過し、施設の老朽化が顕著となっていることから、利用者の安全、安心を確保するため、より一層適切な維持管理を行う必要がある。</p>
--------	---

< 指定管理者の評価・報告書(平成 23 年度分) >

指定管理者の名称: 東海美松園グループ

1 管理業務の実施状況及び利用状況

(1) 管理業務の実施状況

① 鈴鹿青少年の森事業の実施に関する業務

- 受付事務所を、第一炊飯場隣に移動したことで利用者のよりタイムリーな声を聞くことができ、利用者に対して今まで以上の早い対応を行った。
- 鈴鹿青少年センターと協力し、平成 24 年度に鈴鹿青少年センターで宿泊し炊飯場を利用する学校に対して平成 23 年 9 月に炊飯場利用申請書を郵送することで利用者の利便性の向上を図った。
- 平成 23 年度、芝生管理において芝生の成長が早く常設の芝刈り機(2 台)以外の芝刈り機も導入して作業を実施した。
- 公園利用者増加のために、次の自主事業を実施した。
4 月堆肥の交換会、7 月夏休み工作教室(エコ粘土教室)、8 月夏休み工作教室(間伐材のプランター)、11 月キャンドル教室、2 月ボランティア花壇、各月一回のディスクゴルフ大会
- 維持管理については、利用者が快適に利用できるよう施設の清掃、修繕を実施したことによりご意見箱や年間 2 回のアンケートの結果も高い評価をいただいている。
- 園内の松枯れがひどいため、昨年と同様に園内の補植を実施した。
- 希望の池、友情の池へ EM 菌(有用微生物群)を投入した。
- 園内入り口に、オートバイの侵入防止柵を設置した。

② 施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

- 園内随所で老朽化による修繕事項が目立ってきている。
- 今年度は園路のアスファルト舗装の打ち替え、各箇所トイレの給排水設備の修繕、浄化槽ブローア交換、支障枝の剪定、各箇所の遊具の足元へ土砂の補充、漏水復旧工事 2 件を実施した。
- 今後、対処する修繕としては、ユニバーサルデザインに即した修繕が必要である。
- 簡易な補修業務は、経費削減のため職員で実施した。

③ 県施策への配慮に関する業務

- 東日本大震災の被災者に対して、日本赤十字を通じて義援金を寄付した。
- 公園利用者の人権を尊重するため、行政主催の研修会に参加。また、定例会議の中でも職員の意識向上を図るため小冊子を用いて研修会を実施した。
- 次世代育成のディスクゴルフ大会(12 回/年間)で、老若男女の参加者が年々増加している。
- 草・木・芝などを破砕処理し発酵した堆肥を、ペットボトルキャップと交換し、NPO 法人を介してワクチンに交換してボランティア活動に参加した。
- 園内で従事する職員は、高齢者の継続雇用を実施した。
- 園内利用者の協力の下、災害訓練を実施した。

④ 情報公開・個人情報保護に関する業務

- 情報公開については、「三重県営都市公園鈴鹿青少年の森の管理業務に係る情報公開の実施に関する規定」に基づき実施している。なお、平成 23 年度開示請求なし。
- 個人情報保護については、「基本協定書 別記 2(改定)」に基づき実施。公園内行為許可書は、鍵つきの文書庫に保管している。

⑤ その他の業務

- 園内で発生した悪戯による施設の破損は、県への連絡後早急に対応修繕を実施した。
- 園内利用者(春・秋)アンケート業務実施。(200 名/年間)

(2) 施設の利用状況

< 目標 > 年間公園利用者数 26 万人

< 実績 > 年間公園利用者数 256,563 人(目標値の 98.7%)

2 利用料金の収入の実績

--

3 管理業務に関する経費の収支状況

（単位：円）

	収入の部		支出の部		
	H22	H23		H22	H23
指定管理料	41,007,000	41,007,000	事業費	13,168,820	12,815,607
利用料金収入	0	0	管理費	29,390,100	29,973,095
その他の収入	2,080,607	2,197,645	その他の支出	0	0
合計 (a)	43,087,607	43,204,645	合計 (b)	42,558,920	42,788,702
収支差額 (a)-(b)	528,687	415,943	/		

※指定管理者が変わった場合、前年度の収支状況には斜線を記入しています。

※参考

利用料金減免額	—
---------	---

4 成果目標とその実績

成果目標	年間園内利用者数 26万人
成果目標に対する実績	年間利用者数 256,563人
今後の取組方針	<p>成果目標は達成できなかったが、平成22年度の利用者数よりは上回っている。平成24年4月からホームページから炊飯場の予約が可能になったので、利用者の増加につなげていきたい。</p> <p>今まで以上によりよい空間作りで、利用者に満足していただけるように心がける。第1駐車場の身体障がい者用出入り口を整備することで、利用拡大を図る。身体障がい者のために、車椅子の貸し出しを実施する。</p> <p>自主事業の告知期間を長く設ける。</p> <p>今後は、簡易な修繕だけでなくベンチ等の修繕で、専門職の指導の下、職員で対応し経費節減に努めたい。</p>

5 管理業務に関する自己評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	評価		コメント
	H22	H23	
1 管理業務の実施状況	B	B	芝生管理は、作業の効率化を図り常設の機械だけでなく他の機械を補充して管理に当たった。 施設のよりよい空間の提供により、園内利用者アンケートの結果から、施設の満足度・職員の対応の満足度も9割前後の満足度結果をいただいている。今後も続けていきたい。
2 施設の利用状況	B	B	平成23年9月に炊飯場の申請書を学校に郵送することで、利用者の利便性が向上した。 受付事務所を第1炊飯場の隣に移した結果、利用者のよりタイムリーな声が聞けるようになった。 県内在住の利用者が7～8割で県外利用者が2～3割の利用頻度となっている。今後、県外利用者の利用促進を考えている。 多目的グラウンドに、不陸整正用の砂を適宜ストックすることで、多目的グラウンドの利用者も徐々にではあるが増加している。
3 成果目標及びその実績	C	C	園内利用者目標数26万人に対して、256,563人(98.7%)であった。 年々利用者数は、増加しているが、成果目標値には達していない。 アンケートの結果から好評である平成23年度中止したワクワク祭りの集客も重要視していく。

※評価の項目「1」
の評価：

- 「A」→ 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
「B」→ 業務計画を順調に実施している。
「C」→ 業務計画を十分には実施できていない。
「D」→ 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」
「3」の評価：

- 「A」→ 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
「B」→ 当初の目標を達成している。
「C」→ 当初の目標を十分には達成できていない。
「D」→ 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

総括的な 評価	<p>●上記の評価に至った根拠・理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果目標は、達成できなかったが年々利用者は増加している。 ・利用者の利便性を向上するためホームページから炊飯場の予約ができるシステムの開発を行い、平成24年4月から運用開始する予定である。 ・利用者アンケート結果、樹木の補植必要箇所が多々ある。今年度も引き続き補植する予定である。 ・第3駐車場のバリアフリー化整備を実施する必要がある。 ・平成24年度は年間公園利用者数26万人を成果目標とする。 <p>●その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内に不審者の注意喚起看板の設置(冬期)徒歩巡視の回数増加により、女性の単独利用もしやすくなった。 ・利用者意見を尊重し、維持管理業務を遂行した。また、緑地管理・清掃などアンケート結果から以前よりよくなったとの回答が多くなっている。 ・修繕を、業者に全て任せるのではなく、出来る範囲内で職員により対応したことでコスト削減につながった。 ・緊急事態に備えて分担していた役割を、全ての職員が対応できるように所長が教育を開始した。 ・緑地管理は、専門知識・経験のある職員を配置して管理することが出来た。平成24年度もこの体制を維持・向上していく。
------------	--

＜指定管理者の評価・報告書（平成 23 年度分）＞

指定管理者の名称：大島造園土木株式会社

1 管理業務の実施状況及び利用状況

(1) 管理業務の実施状況

① 亀山サンシャインパーク管理運営事業の実施に関する業務

○業務計画書に基づいて植物管理業務、清掃管理業務、保守点検業務、日常点検業務、巡回警備業務、物品管理業務、修繕管理業務、門扉開閉業務を行った。又、地域住民・地域団体・公共機関のご協力において、次の自主事業イベントを行い、県民サービスの向上に努めた。

10月中旬に、第4回ふれあい動物園を芝生広場にて開催した。亀山市の広報「広報かめやま」・鈴鹿市の広報「広報すずか」に掲載したこと、またホームページ、園内の水の遊び場やサービスエリアの通路に設けた開催告知看板を設置したことにより、過去最高の600名程の参加があった。1月下旬に、平成22年度大好評だったマラソンの部とウォーキングの部があるトリム競技大会を地元自治会の協力により開催した。開催によりマラソンやウォーキングを楽しむ健康志向の高い客層が増えた。テレビ局等へ積極的に取材要請を行い、テレビで開催状況が放送され多くの県民が公園を知ることができた。3月中旬に、第4回「亀山サンシャインパークを考える懇談会」を開催した。その際、平成23年度運営に関する報告と園内において実施したアンケート調査等の報告を行い、また地元自治会・ボランティア団体・亀山市役所、三重県鈴鹿建設事務所から多くの公園に対する貴重なご意見・ご要望を聞く事ができた。平成24年度の運営に反映し利用者サービスの向上に努め、愛される公園づくりを行いたい。

② 施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

○維持管理業務において、平成22年度懇談会でいただいた意見を取り入れながら芝生及び植栽樹木等の植物管理、電気設備・給水設備等の保守点検、遊具、公園施設等の日常点検、公園内の施設・設備等の修繕などを行った。12月に行った運営業務の1つである利用者アンケート調査を行った結果は回答者全員がトイレ・遊具・バーベキューランド等の施設管理の状況については「普通」以上の回答であり「汚い」と答えた回答者はいなかった。再来園の意向については「来る」以上の回答が平成22年度の90%から94%となった。3月中旬に、三重県と亀山市の花でもある花菖蒲園の改修工事を行った。

○花菖蒲が衰退してきたので改修により新たに864ポットの花菖蒲を植付けた。修繕業務においては、バーベキューテーブルの防腐剤塗付、遊具の部材交換1箇所、井戸ポンプのタイマー交換1個、トイレの壁面の高圧洗浄、台風による倒木等の復旧2回、園路舗装のクラックと陥没箇所のモルタル詰め、遊具周辺の段差をなくす為の山砂搬入整地、木材手摺の部材交換1箇所、門扉の溶接のやり直し1回、80,850円の修繕を行った。簡易な修繕については、職員で対応し経費削減に取り組んだ。早期の発見と対応により利用者の事故はなかった。

③ 県施策への配慮に関する業務

○「人権尊重社会の実現」として、基本的人権を尊重することにより、地域・国籍・年齢・性別等に隔たりない接客対応を平成23年度も続けた。また、誰もがバーベキューランドを利用しやすいように電子メールやFAXでも対応した。高齢者を職員として新たに1名増員した。

○「男女共同参画社会の実現」として、愛護会の女性会員が増えて、手入れがよくされるようになったことから、公園の花壇が華やかになった。また女性職員が自主事業のトリム競技大会、亀山サンシャインパークを考える懇談会で活躍した。

○「次世代育成支援の推進」としては、自主事業のふれあい動物園では親子の絆、豊かな個性・感受性を育み、トリム競技大会において親子や孫と祖母と一緒に参加して体力づくりをした。

④ 情報公開・個人情報保護に関する業務

○「情報公開実施要領」を制定している。平成23年度の開示請求はなし。

○個人情報保護として、「文書整理保存要領」を定め、バーベキュー・遊具の貸し出し名簿等を要領に基づき、鍵付きロッカーに保管している。

⑤ その他の業務

○夜間巡視等により事故や事件はなかった。

(2) 施設の利用状況

＜目標＞ 年間公園利用者数 780,000人

＜実績＞ 年間公園利用者数 805,803人(対前年比 20,490人減)

園内利用者数 90,644人(対前年比3,852人増)

オアシス館 708,153人(対前年比22,987人減)

バーベキューランド 7,586人(対前年比1,385人減)

行為の許可12件(テレビ撮影2件、興行6件、交通安全運動2件、ボランティア1件、土壌調査1件)

2 利用料金の収入の実績

9,920円の収入があった。 エントランスでのイベント 7,400円 テレビのロケーション 2,520円
--

3 管理業務に関する経費の収支状況

(単位:円)

	収入の部		支出の部		
	H22	H23		H22	H23
指定管理料	20,638,000	20,173,484	事業費	6,490,242	6,999,266
利用料金収入	35,900	9,920	管理費	13,062,149	12,560,198
その他の収入	12,600	0	その他の支出	0	0
合計 (a)	20,686,500	20,183,404	合計 (b)	19,552,391	19,559,464
収支差額 (a)-(b)	1,134,109	623,940			

※参考

利用料金減免額	—
---------	---

4 成果目標とその実績

成果目標	年間公園利用者数 780,000人
成果目標に対する実績	年間公園利用者数 805,803人(対前年比 20,490人減、97.5%) 園内利用者数 90,064人(対前年3,852人増、104.5%) オアシス館 708,153人(対前年比22,987人減、96.9%) バーベキューランド 7,586人(対前年比1,385人減、84.6%)
今後の取組方針	園内利用者数が過去最高記録を更新し、成果目標を達成した。 これは、平成 22 年度に引き続き利用者アンケート調査や園内にあるご意見箱・地域住民との懇談会でのご意見・ご要望を確実に把握し、地域住民やボランティア団体などと一緒に協力し愛される公園づくりに取り組んだ結果である。 今後も地域住民と協力し利用者からより喜ばれ愛される公園づくりを目指して管理を行っていきたい。 また、高速道路エリアからの利用者がまだ少ないのでオアシス館のイベントにできる限り協力し、さらにエントランス花壇の花弁を愛護会と話し合い、協働により華やかにし公園へ呼び込みたい。

5 管理業務に関する自己評価

評価の項目	評価		コメント
	H22	H23	
1 管理業務の実施状況	A	A	地域住民と自主事業のトリム競技大会などのイベントで協力し合い、亀山サンシャインパークを考える懇談会では行政や地域団体のご意見・ご要望を生かして利用者ニーズの高い管理を行った。アンケート調査では、施設の管理状況や樹木や植込みの管理状況について高い評価だった。平成 23 年度は利用者ニーズの高い花菖蒲園の再整備を行い公園の魅力を高めた。
2 施設の利用状況	A	A	テレビ局や新聞社に対して取材要請を行い自主事業のふれあい動物園・トリム競技大会がテレビや新聞で紹介され知名度を上げ園内の利用者は過去最高だった。団体利用では幼稚園 7 園 495 名、小学校 10 校 974 名、その他 16 団体 858 名、合計 33 団体 2,327 名の利用だった。平成 22 年度に対して地域の利用は平年並みだった。
3 成果目標及びその実績	B	B	利用者数 805,803 人で、成果目標 780,000 人に対して、103.3%の達成であった。園内の利用者数のみでは平成 22 年度より 104.5%の増加だったが、利用数全体の 9 割を占めるパーキングエリアにあるオアシス館利用者数が減少し、バーベキュー施設の利用者数も平成 22 年度より減少した。 利用者数が伸びなかった要因は、高速道路の休日割引の廃止で高速道路の利用者減によりオアシス館の利用者が減少したためである。また 2、3 月に例年と比べ雨や降雪が多かったためバーベキューを目的とする来園者が減少したと考えられる。

※評価の項目「1」
の評価：

- 「A」→ 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
「B」→ 業務計画を順調に実施している。
「C」→ 業務計画を十分には実施できていない。
「D」→ 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」
「3」の評価：

- 「A」→ 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
「B」→ 当初の目標を達成している。
「C」→ 当初の目標を十分には達成できていない。
「D」→ 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

総括的な 評価	<p>●上記に評価に至った根拠・理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数 805,803 人で、成果目標 780,000 人に対して、103.3%の達成であった。 ・平成 23 年度は、テレビ局への取材要請により公園がテレビで紹介される回数も多く公園の知名度が上がり、利用者が増加した。 ・成果目標は年間公園利用者 78 万人、園内利用者数は平年並みでバーベキューランドの利用者数は平成 23 年度の 5%増加を目指していく。 <p>●その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレ、遊具、バーベキューランド等の施設管理状況はアンケート調査で 81%の回答者が「きれい」「まあまあきれい」、樹木や植え込みの管理状況では 89%の回答者が「良い」「まあまあ良い」と答えた。再来園の意向については、回答者の 94%が「必ず来る」「来る」と答えており、「多分来る」を含めると全ての利用者が再来園に前向きな意見であった。 ・パーキングからの利用者がまだ少ないので、地域住民と協働によりエントランスの花壇を花卉で華やかにして公園へ呼び込みたい。 ・管理事務所職員の接客態度などの向上を図り、再来園者の数の増加に取り組みたい。 ・芝生広場の芝生を地域住民と協力し合いより綺麗に管理を行い、快適に過ごせる公園を目指したい。 ・親子に公園を親しんでもらうために夏休みに公園で花を参加者で植え、高塚池の生態系調査を地域団体の協力により行い、昼はバーベキューをするなど新たな自主事業として「公園で遊ぶの会」を行いたい。
------------	--

指定管理者が行う公の施設の管理状況報告(平成23年度分)

〈県の評価等〉

施設所管部名: 県土整備部

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	県営都市公園 大仏山公園（多気郡明和町新茶屋他地内）
指定管理者の名称等	有限会社太陽緑地 代表取締役 吉川信吾（伊勢市下野町600-13）
指定の期間	平成20年4月1日～平成25年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・公園の維持修繕及び巡視点検に関する業務 ・公園の利用者への案内に関する業務 ・条例に基づく公園の利用時間の変更、公園内の行為の制限、利用の禁止又は制限 ・公園施設のうち野球場、テニスコート及びゲートボール場の利用の許可 ・公園の利用の促進 ・その他の業務

2 施設設置者としての県の評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	H22	H23	H22	H23	
1 管理業務の実施状況	B	B			施設・設備の運用管理、維持管理が適切に実施され、利用者の立場に立った公園管理ができていると評価できる。
2 施設の利用状況	C	B	+		施設利用料金は目標値を下回ったものの、テニスコートを砂入り人工芝のコートに改修したことを機会に、新たにポイントカードサービスを導入していることは、利用者へのサービス向上に努めていると評価できる。
3 成果目標及びその実績	A	B	-	-	年間公園利用者数は、成果目標の21万人をやや下回ったが、天候不順日が多かったのが一因と考えられる。 利用料金収入についても、成果目標の500万円を達成することができなかった。

※「評価の項目」の県の評価：

「+」（プラス）→ 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。

「-」（マイナス）→ 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。

「」（空白）→ 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総括的な評価	<p>（指定管理者の評価に対する県の評価）</p> <p>指定管理者においては、すべての項目についてB評価としている。</p> <p>「成果目標及びその実績」については、外的な要因があったとはいえ公園利用者数及び利用料金収入ともに成果目標を達成できなかったことからマイナス評価とした。</p> <p>管理費を396,230円減少させたうえで、事業費を増やし、自主イベント等を行っており、コスト削減に努めつつ、住民サービスの向上に取り組んでいると評価できる。</p> <p>（今後の課題又は指定管理者への期待）</p> <p>公園開園後25年近くが経過し、遊具の老朽化が進行していることから、利用者の安全、安心を確保するため、より一層適切な維持管理を行う必要がある。</p> <p>また、年間公園利用者数、利用料金収入の成果目標を達成するために、利用者拡大に向けた新たな取組を実施していく必要がある。</p>
--------	---

<指定管理者の評価・報告書(平成 23 年度分)>

指定管理者の名称:有限会社太陽緑地

1 管理業務の実施状況及び利用状況

(1)管理業務の実施状況

①大仏山公園事業の実施に関する業務

- テニスコート利用者に対し、30 時間使用すれば 1 時間無料で使用可能となるポイントカードサービスを平成 23 年 5 月に導入した結果、平成 22 年の同時期と比べ、昼間で 139 件、夜間で 46 件の増加があり、193, 370 円の増収につながった。
- 公園の山側にあたる場所では、マムシなどの発生時期に合わせて注意喚起を促す看板を設置し、利用者に告知した。
- 公園内の落ち葉や刈草を希望者に配布した。
- 春と秋のイベントでは、ステージイベント等の数を増やし利用者が満足できる工夫をした。(飲食店に地域のB級グルメ店の出店、フリーマーケットのブース数の拡大、竹細工教室等の体験コーナーの設置)
- 東日本大震災以降、節電に努めた。

②施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

- イベント時に実施したアンケート調査結果を踏まえ、管理棟の男女身障者用トイレの鍵及び荷物掛け用フックを取り付けた。
- テニスコート前のベンチの座板及び背もたれの老朽化が著しいため、取替を実施した。
- 野球場横のスピーカーの取替え及び浄化槽の配管修理を実施した。
- 利用者の安全性を確保するため、年1回の遊具の定期点検結果と、当社が独自に実施した専門家による点検(2ヶ月に1回)結果で判明した不良箇所のうち、軽微な箇所については、速やかに修繕を実施した。
- 使用禁止すべきと判定された不良箇所は修繕が完了するまで使用禁止措置をとった。
- 園路のタイルの剥離など軽微な修繕は委託せず、職員で実施し、コスト削減に努めた。

③県施策への配慮に関する業務

- 公園からの通知事項は、ポスターで掲示するだけでなく、目の不自由な方に配慮して管内放送でも案内を実施した。
- 維持管理の業務において、除草業務や清掃業務等は年齢を問わず、近隣に在住している女性を雇用した。
- 管理事務所職員を増員して雇用促進に努めた。

④情報公開・個人情報保護に関する業務

- 平成 20 年 1 月に三重県情報公開室から説明を受けた「指定管理者の情報公開実施要領案」に基づき、「三重県大仏山公園管理に関する情報公開実施要領」を策定し実施している。なお平成 23 年度の開示請求はなかった。
- 大仏山公園のホームページで施設の予約状況等が確認できるが、予約者の名称は非開示とし、管理事務所職員にも漏洩しないよう注意している。

⑤その他の業務

- 平成 23 年 8 月に、多目的広場に設置してある自動販売機が夜中から明け方にかけて何者かにより破壊され、夜間巡回員から報告を受けた公園管理責任者が、速やかに伊勢警察署及び伊勢建設事務所に連絡を行った。なお、被害届は当該自動販売機設置者により提出された。
- 明和町側からの公園進入路においては、粗大ゴミその他生活ゴミの不法投棄が多発しており、これらの回収を管理事務所職員で実施した。

(2)施設の利用状況

<目標> 年間公園利用者数 21万人

<実績> 年間公園利用者数 208, 195人
 園内利用者数 183, 320人
 野球場 16, 096人
 テニスコート 8, 351人
 ゲートボール場 428人

2 利用料金の収入の実績

<目標> 5,000,000円

<実績> 4,416,940円

(内訳) 野球場 2,150,620円

テニスコート 2,264,220円

ゲートボール場 2,100円

3 管理業務に関する経費の収支状況

(単位:円)

	収入の部		支出の部		
	H22	H23		H22	H23
指定管理料	43,500,000	42,500,000	事業費	12,536,679	12,882,975
利用料金収入	4,426,550	4,416,940	管理費	34,133,220	33,736,990
その他の収入	29,930	0	その他の支出	0	0
合計 (a)	47,956,480	46,916,940	合計 (b)	46,669,899	46,619,965
収支差額 (a)-(b)	1,286,581	296,975			

※指定管理者が変わった場合、前年度の収支状況には斜線を記入しています。

※参考

利用料金減免額	—
---------	---

4 成果目標とその実績

成果目標	年間公園利用者数 21万人 利用料金収入 500万円
成果目標に対する実績	年間公園利用者数 208,195人 利用料金収入 4,416,940円
今後の取組方針	他団体によるイベント等の誘致(ただし、大仏山公園に適したものに限り) 平日の施設利用促進(地域の旅館と連携し、合宿等の呼びかけを行う) テニス教室の開催(人数が一定数以上集まれば開催) 遊具等施設の老朽化に伴う修繕等を進める。 引き続き適切かつ臨機応変な公園の維持管理を行う。 ゲートボール場の改修も含めた利用方法の検討していく。

5 管理業務に関する自己評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	評価		コメント
	H22	H23	
1 管理業務の実施状況	B	B	運営管理面では、利用者とのトラブルもなく適切に管理している。 維持管理業務のうち緑地管理面では、夏場に適度な降雨もあり、例年より適切に管理が行えた。 修繕面では、30万円以下の緊急性のあるものや、利用者から要望があったもの計5件について速やかに実施した。
2 施設の利用状況	C	B	利用金額は目標額を下回ったが、テニスコートを砂入り人工芝のコートに改修したこと、ポイント制を導入したことで増加傾向にある。 野球場はほぼ例年並みの利用状況であった。 春と秋の休日には、多目的広場や子ども広場を中心に多くの家族連れで賑わった。
3 成果目標及びその実績	A	B	年間公園利用者数は、成果目標の21万人をやや下回ったが、平成23年度は天候不順が多かったのが一因と考えられる。 有料施設の利用金額も目標金額の500万円を下回ったが、テニスコートの利用はコート改修及びポイントカードサービスの導入により増加している。 毎年実施する春、秋のイベントは、伊勢市と連携して実施した結果、例年よりも盛況であった。

※評価の項目「1」の
評価：

- 「A」→ 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
「B」→ 業務計画を順調に実施している。
「C」→ 業務計画を十分には実施できていない。
「D」→ 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」
「3」の評価：

- 「A」→ 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
「B」→ 当初の目標を達成している。
「C」→ 当初の目標を十分には達成できていない。
「D」→ 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

総合的な 評価	<p>●上記の評価に至った根拠・理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園利用者数が成果目標を達成することができなかったのは、天候不順の日が例年より多かったためである。 ・有料施設利用金額が成果目標を達成することができなかったのは、テニスコートの改修工事があり、使用禁止期間があったためである。 ・残されている課題としては、春と秋の2大イベントの他にも、この公園にふさわしいテーマや、地域住民の関心が高いテーマを掲げたイベントの誘致に取り組むことや、有料施設の平日の利用を促進する(例えば、地元の旅館と連携し、合宿等の呼びかけを行う。テニス教室を開催する。ゲートボール場の改修も含めた利用方法を県と協議する等。)ことである。 ・平成24年度は年間公園利用者数21万人、利用料金収入は500万円を成果目標とする。 <p>●その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・維持管理業務は適切に実施したと考えているが、公園が設置されてから約25年経過し、施設全体が老朽化していることから、修繕や更新について今後県と協議していきたい。 ・明和町側から公園への進入道路付近で不法投棄が多発しているため、県と協議のうえ、対策を講じていきたい。 ・他の公園のように自然観察教室等も試みているが、参加者が少ないため、竹細工教室等は秋のイベントに組み込んでいる。ただし、今後もイベントに頼らない開催を目指していく。 ・大仏山公園は、年配者を中心とした散歩スポットとなっており、公園職員とのふれあいの場ともなっている。今後もさらに愛される公園をめざして努力していきたい。
------------	---